

地域向け広報誌
2019.初秋

第50号

国民健康保険
小松市民病院

ヴェーダ

V E D A (ヴェーダとは
サンスクリット語で
“癒し”を意味します。)

地域の皆さん向けの広報誌

基本理念

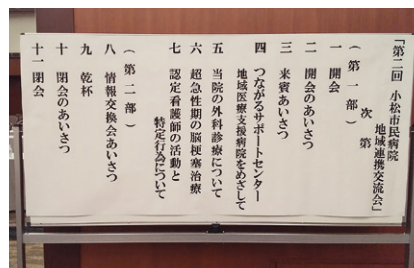
共に歩む



基本方針

- ・患者さんの人権と権利、そして思いを尊重します
- ・急性期医療、がん医療、予防医療を推進します
- ・救急医療の充実に努めます
- ・地域の医療・介護・保健機関とつながる医療を行います
- ・職員の働きがいのある職場を目指します

第2回 小松市民病院 地域連携交流会を終えて



本院は、地域の医療・介護・保健機関と連携強化を図ることが大切だと考えており、当院の活動報告や多職種の情報交換の場を設けることを目的に、令和元年6月5日(水)に「第2回小松市民病院地域連携交流会」を開催しました。

第1部の講演会では、村上院長、東野小松市医師会長の挨拶のあと、新多副院長が「つながるサポートセンター：地域医療支援病院をめざして」、塚山外科担当部長が「当院の外科診療」、村松脳神経外科担当部長が「超急性期の脳梗塞治療」、つながるサポートセンター山本看護師長(糖尿病看護認定看護師、特定行為研修修了者)が「認定看護師の活動と特定行為について」と題して、当院の活動や診療の取組みや特徴についてご報告をすることができました。

その後、会場を移し、第2部の情報交換会を行いました。沼田南加賀保健福祉センター長の乾杯のあと、医師、看護師、理学療法士、ソーシャルワーカー、事務の皆様が交流を深められているお姿をお見受けし、改めて本院における地域連携の意義とあるべき姿の重要性を再認識することができました。アンケートでは身近で交流が出来てよかったといったお声をたくさんいただき、短い時間ではありましたが、有意義な時間をお過ごしいただけたのではないかと考えております。

今後も地域の医療・介護・保健機関との連携をより一層深め、また、患者さん一人ひとりの状況を把握し、入院前から退院後まで一貫した支援を提供するために「つながるサポートセンター」が中心となり活動を行います。南加賀医療圏での地域完結型医療の推進を図るため、救急医療をはじめとした、高度急性期及び急性期医療を中心とした当院の果たすべき役割の明確化により、医療提供体制の構築に努めていきたいと思っております。

市民公開講座の ご案内

今年も市民公開講座の開催を予定しております。

と き：令和元年10月19日(土) 13:00～

と ころ：第一地区コミュニティセンター

『明日を生きるがん治療』をテーマに開催します。

参加は無料です。たくさんの皆さまのご来場をお待ちしております。

認定看護師紹介

認定看護師とは、特定の看護分野において、熟練した看護技術と知識を用いて水準の高い看護実践のできる看護師のことです。これまで11分野14名の認定看護師が活動しています。

今年度、新たに3名の認定看護師が誕生しました。



認知症看護認定看護師 西口 深美子

認知症の人とかかわる中で、「私、認知症じゃないかしら」「旦那の物忘れがひどくて困る」「こんなときどうすればいいんだろうか」など本人や、家族の人の色々な思いや悩みを知りました。そんな思いや悩みを少しでも楽にできるお手伝いをしたいと思い認知症看護を学んできました。まだまだ勉強不足ですが、今は急性期病院における認知症看護を考え、入院生活をサポートしていきたいと思っています。



摂食嚥下障害看護認定看護師 畑中 美恵

摂食嚥下障害看護とは、疾患の後遺症や認知症、高齢などさまざまな要因により食事嚥下動作機能のいずれかがうまく機能せず、口から食べることや飲み込むことが難しくなってしまうことをいいます。口から食べるということは単純にみえて、実は脳や多くの神経、筋肉が絶妙なタイミングで動くことが大切です。機能が回復できるよう原因のアセスメントにより介入し、リハビリに取り組みめるよう関わっていくことが大切です。誤嚥や窒息の危険性回避できるよう安全な経口摂取を目指し、「その人らしさ」を取り戻すお手伝いをすることが重要であると考えています。



手術看護認定看護師 角浦 裕里

近年、麻酔薬の進歩や手術器械の改良、手術後の管理方法など医療技術が発展したことにより、高齢者やさまざまな合併症を有する患者さんの手術が可能となっています。手術を決意される患者さんや家族の思いを尊重し、少しでも緊張や不安が軽減するよう早期から関わり、手術中は常に患者さんのそばにいて、安全・安楽が確保できるよう努めています。また緊急手術では医師や専門技師と連携し迅速に対応できるよう様々な状況の判断を行っています。今後も私たちは、多職種と連携し安心で安全な手術が提供できるよう努めていきたいと思ひます。

認定看護師が地域の医療機関、施設に出向いています。

松寿園

令和元年6月25日(火)
18:00~19:00「感染症の予防と対応～食中毒・インフルエンザ・ノロウイルス・結核など～」
感染管理認定看護師 新木 京子

太陽のプリズム河原

令和元年7月11日(木)
14:00~15:00

「陰部洗浄について」

皮膚・排泄ケア認定看護師 西本 由美

お気軽にご依頼ください。



地域を共に支えるお医者さん

見谷内科医院

小松市北浅井町ハ77 ☎22-0885



院長 見谷 巖

私が開業した昭和57年頃は訪問看護、訪問介護サービスなど一切なく、家族が介護すると言う習慣がありました。しかし医師の往診だけでは、負担が大きく、小松市で第1号の訪問看護ステーションを開設しました。今は介護保険制度があり、地域包括ケアシステムが整備されつつある時代になりましたが、逆に家族介護と言う言葉が段々なくなりつつあるように思われ寂しく感じております。自宅で過ごすには切れ目のない医療、看護、介護等のバックアップ体制がないと継続できないのではないかと考えています。実現できないのが夢と言う事なのですが、私が目指す自宅での看取りと云う夢に向かって何とかもう少し頑張りたいと思います。また、私が目指すのは聖路加国際病院理事長の日野原重明先生の105歳です。先生は「いのち」とは自分が使える時間だとおっしゃっています。私も生涯現役の気持ちで頑張っていきたいと思っております。今後とも御指導よろしくお願い申し上げます。



福村医院

小松市島町ル115番地3 ☎44-3332



院長 福村 順

広く内科疾患患者さんと小学生以上の小児の診察をしています。高度の検査や入院診療を要する患者さんについては、速やかに連携病院や専門医療機関へ紹介しています。また、通院困難な患者さんには訪問診療をしています。訪問看護ステーションの協力を得て、穏やかな在宅療養ができるよう努めています。先日も、ポケットを伴う重度の褥瘡のある患者さんに、訪問看護ステーションの方がこまめにケアをしてくれたおかげで治癒した症例があり、みんなに感謝の思いでいっぱいでした。

日ごろから、赤塚不二夫さんの“これでいいのだ”ではありませんが「これでいいのか。」「これがベストか。」と自問しながら診療をしています。市民病院との連携も送るべきか悩むことも多い中、こちらに紹介される時に年1回の受診で良いとか、誕生日受診で良いなど連携を具体的に伝えていただけることは有難いと思っています。

趣味は、家庭菜園です。日曜や休診日に畑にいる姿をよく見られているせいか、地域の患者さんも医院ではなく、畑に呼びに来たこともありました。



お詫びと訂正

地域向け広報誌「ヴェーダ」第49号において、間違った表記がございました。

つきましては、下記のように訂正させていただくとともに、関係者の皆様にご迷惑をおかけしましたことを深くお詫び申し上げます。

「ヴェーダ」第49号4ページ上段 やわたメディカルセンター 小松市八幡イ12-7 (誤)☎22-6273 ⇒ (正)☎47-1212



メディカルレポート

呼吸器内科

呼吸器内科医長

米田 太郎

当院は常勤呼吸器内科医師2名にて呼吸器疾患の診察・治療を行っています。

当院は南加賀地区で肺癌診断・治療を行う数少ない病院であることから、肺癌疑いの患者様をより多くご紹介いただいております。

肺癌の診断・治療は大きく変化しています

【肺癌診断】

肺癌の確定診断は気管支鏡検査で行うことが一般的です。経気管支肺生検(TBLB、EBUS-GS法)、肺野に生検可能な病変が確認できなくても、縦隔リンパ節転移を疑う病変があれば、超音波気管支鏡ガイド下針生検(EBUS-TBNA)にてリンパ節生検が可能です。当院ではシステムは完備しており、診断に欠かせません。当院では気管支鏡検査は年間80~100件施行しています。



【肺癌治療】

肺癌、特に進行期の治療はここ10年で大きく変化しています。それを反映して、「肺癌診療ガイドライン」も毎年更新されています。肺癌進行期の治療薬は大きく分けて分子標的薬、免疫チェックポイント阻害薬、細胞障害性抗癌剤に分類されます。

① 分子標的薬

2007年にEGFR遺伝子変異検査が保険収載されました。EGFR遺伝子陽性肺癌に有効とされるEGFRチロシンキナーゼ阻害薬が従来の殺細胞性抗癌剤治療より治療効果は優れることが臨床試験で確認され、第1、2世代EGFRチロシンキナーゼ阻害薬一次治療に選択されるようになってきました。耐性後に出現する獲得遺伝子変異も発見され、耐性遺伝子変異を有する肺癌に効果が高い第3世代EGFRチロシンキナーゼ阻害薬も登場し、現在は一次治療からでも投与が可能となっています。

② 免疫チェックポイント阻害薬

2015年から肺癌に適応となりました。従来の細胞障害性抗癌剤とは異なる免疫関連副作用に注意が必要です。治療開始から5年後の生存率が15%と報告され、その治療成績はこれまでの肺癌の概念を大きく変えています。ただし、すべての肺癌に効果が確認されるわけではありません。ニボルマブの開発者で2018年のノーベル賞受賞の京都大学本庶祐教授の言葉を引用すれば「画期的な薬ではあるが万能ではない」薬剤です。2018年年末から、免疫チェックポイント阻害薬と細胞障害性抗癌剤との同時併用療法が保険適用となりました。より良好な治療成績が期待出来ます。

③ 細胞障害性抗癌剤

従来から一般的に使用されている薬剤です。プラチナ併用療法のあとの維持療法や、血管新生阻害薬併用にて治療効果改善が認められています。分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬投与後、増悪した場合に投与することも多いです。



【当院での外来化学療法】

当院では肺癌抗癌剤治療の初回治療導入時は、基本は入院にて開始します。その後、外来通院治療に移行します。外来では「外来化学療法室」にて点滴治療を行います。病棟でも外来でも、がん化学療法認定看護師、がん薬物療法認定薬剤師と連携し、安全な抗癌剤治療を心がけています。平成30年度の肺癌関連外来化学療法実施のべ人数は596件/年(呼吸器内科・呼吸器外科)で年々増えています。



メディカルレポート

呼吸器外科

呼吸器外科医長 田中伸佳

肺がんの手術療法

肺がんは悪性腫瘍の死因として第1位であり、日本国内で年間約7万人が命を落としている悪性度の高い疾患です。自覚症状がほとんどなく、早期発見が難しいことも原因と考えられています。

肺がんはその組織型により非小細胞肺がんと小細胞肺がんの2つに大別されます。全体の約8割を占める非小細胞肺がんではI期～III期が、また残りの約2割を占め化学療法や放射線療法が治療の中心となる小細胞肺がんではI期が手術療法の対象となります(図1、2)。

肺がん手術のアプローチ

においては、創を大きく開く開胸手術から切開を小さくした胸腔鏡補助手術、さらには完全胸腔鏡手術へと、患者さんの痛みや苦痛の少ない低侵襲な手術に移り変わってきました(図3)。完全胸腔鏡手術は、胸腔鏡というカメラから映し出されるモニター像を見ながら、専用の細長い手術器具を用いて行う手術です(図4)。その最大の利点は、創が小さく痛みが少ないことから、入院期間が短期間で済む(当院では術後7日から10日程度)です。欠点は、立体視ができず外科医に高度な技術が必要となることです。根治性(がんを取りきること)が前提であり、選択される手術術式はケースバイケースではありますが、当院では早期肺がんや一部の進行肺がんにおいて完全胸腔鏡手術を行っており、その数は年々増加傾向にあります(図5)。

肺がんの手術療法、放射線療法、薬物療法は年々進歩しており、その治療成績は少しずつ良くなってきています。当院では内科と外科が協力して肺がんの診療を行っており、個々の患者さんに最適な治療法が選択できるよう普段から協議しています。また手術が必要な患者さんについては、安全に安心して手術を受けて頂けるように手術室看護師が入院前から患者さんに関わる取り組みを行っています。これからも体の負担の少ない手術をモットーに、患者さんを思い、寄り添う診療をしていきたいと思ひます。

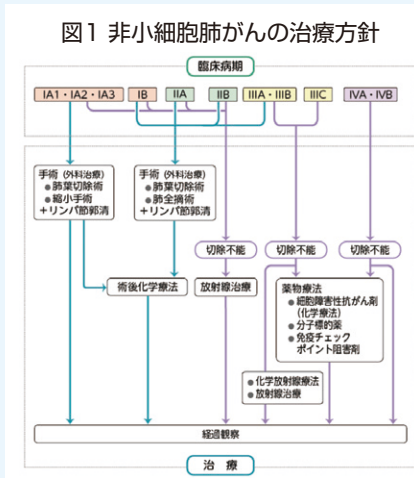


図1 非小細胞肺がんの治療方針

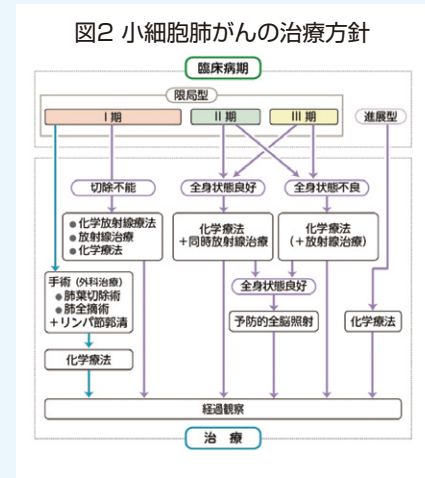


図2 小細胞肺がんの治療方針

図3 肺がんに対する手術アプローチ

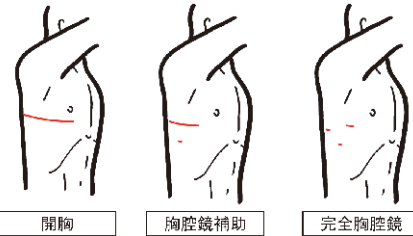


図4 肺がんに対する完全胸腔鏡手術

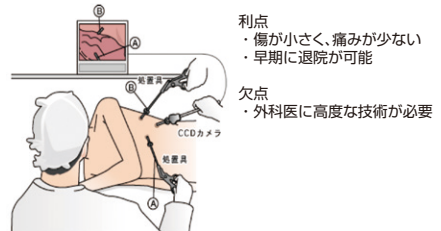
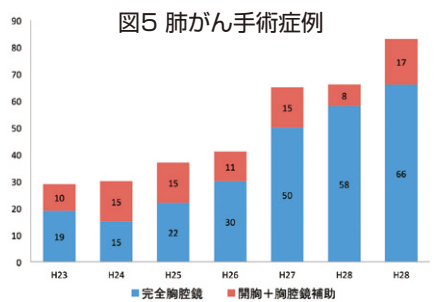


図5 肺がん手術症例





メディカルレポート

形成外科

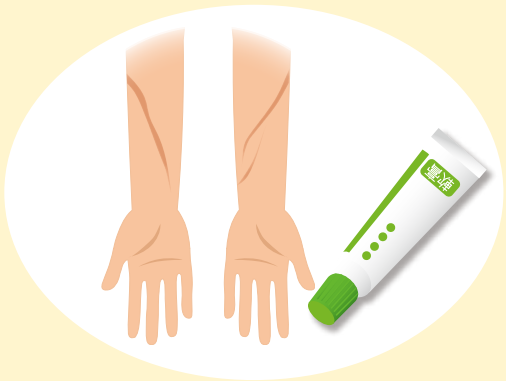
形成外科医長 門平 充弘

小松市民病院は南加賀で唯一、常勤の形成外科医がいる病院です。

形成外科という名前になじみがない方も多いと思いますので、簡単に説明しますと、**腫瘍・外傷・炎症などで生じた組織異常や変形に対して治療を行い、見た目を含めて症状の改善に努める診療科**ということになります。内服薬・外用薬・注射での治療のほか、必要があれば手術を行います。

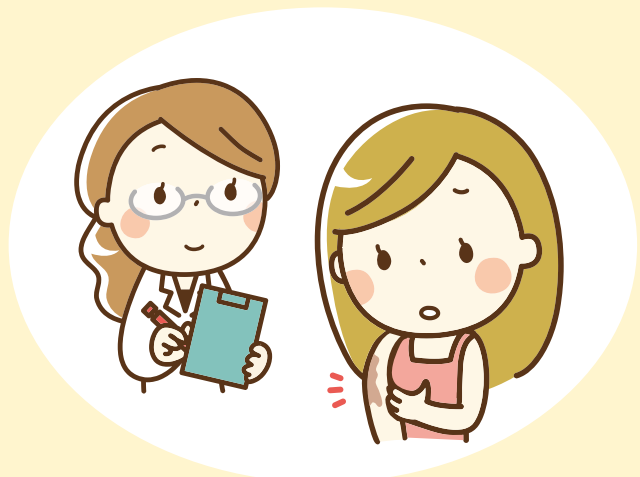


主には皮膚外科、手外科、顔面外科分野を扱っており、皮膚外科としては切り傷や熱傷(やけど)、難治性潰瘍(なかなか治らない傷)、良性・悪性皮膚腫瘍(ほくろ・イボ・しこり・皮膚癌など)、腋臭症(わきが)、ケロイド(傷跡の盛り上がり)など、手外科としては手指の骨折、腱・神経・血管の損傷、陥入爪(爪のくいこみ)、手指変形、先天性多指症・合指症(生まれつき指が多い・くっついている)など、顔面外科としては鼻・頬(ほお)・眼の周りの骨折、眼瞼下垂症(まぶたの下がり)、眼瞼内反症(逆さまつげ)、先天性耳瘻孔(生まれつきの耳前の穴)などを治療しています。その他、乳癌切除後の乳房再建なども手がけています。



月曜日から金曜日まで午前は外来診療を行い、午後は手術をしていますが、手術は予約制で、曜日ごとに手術内容が異なりますので、患者さんの状態・都合にあわせて日程を調整いたします。

当科での治療を希望される方、受診したいけど迷っている方は、是非かかりつけのお医者さんに相談してみてください。治療の選択肢や予想される治療結果を理解していただいた上で、納得いただける専門性の高い治療を受けていただけるよう努めていきます。



女性のみなさんこんにちは 周産期センターです!!

周産期センターでは助産師が、妊娠してから産み育てるまでのお母さんのお手伝いをしています。妊娠がわかり、どのような経過をたどり出産し、子育てに進んでいくのかを具体的に説明したいと思います。



最初、生理がこないことで妊娠に気づくことが多いです。

「あれっ？」

市販の妊娠検査薬で確認する人も多いです。

「どーも妊娠してみたい。病院へ行かなきゃ！」

産婦人科受診し、「おめでとうございます！」と医師に言われ妊娠が確定します。

そして、市町村から母子健康手帳をもらいます。

それから、定期的に妊婦健診が始まります。



妊娠23週までは4週間に1回
妊娠35週までは2週間に1回
妊娠36週からは1週間に1回

妊婦健診の待ち時間を利用して、助産師がいろいろな不安にお答えする個別の説明や、母親学級へ参加して頂き他の妊婦さんとの交流もあります。



妊婦健診

最初は、つわりもありますが、妊娠20週くらいになると胎動を感じます。

「えっ!赤ちゃんが動いたよ。これが、胎動!」「最近はごはんもおいしい。」

予定日が近づいてくると、お腹の張りも増えてきます。

「入院の準備は万端!!」「赤ちゃんに早く会いたいな。」

そして、出産となります。



「こんにちは。わたしの赤ちゃん。」「なんて、かわいいの!!」

必要なときは、出産時に小児科医が立会い、赤ちゃんの緊急時に対応します。

当院は365日24時間、産科医師も小児科医師も待機している病院です。なので、安心して出産ができます。

出産の入院期間は、1週間ぐらいです。

その間に、赤ちゃんの授乳やおムツ換え、お風呂の入れ方を練習します。育児に関して、助産師が懇切丁寧にサポートします。

「赤ちゃんのお世話、上手くできるかな?」「おっぱい、出るかな。」

また、主治医から毎日の回診と退院前の検査やこまかな診察があります。



分娩



保育器と小児科医

赤ちゃんには、小児科医師の診察が生まれたときと退院する前の2回あります。

退院してからは、3日目にお母さんにお電話をします。

「赤ちゃんがねてくれないんです。」などといった、不安な事がないかお話を聞き、アドバイスをしています。

退院して1週間後には、お母さんと赤ちゃんに周産期センターに来てもらい、赤ちゃんの体重測定やお臍の状態をみたり、お母さんのおっぱいをみたりする**無料**の相談窓口があります。

「よかった。体重が増える。大きくなってる。」「母乳、出てるんだ。足りてる。」

「顔が黄色いから心配だったけど、様子みていいよと言われた。よかった。」

その後1ヶ月健診があります。お母さんと赤ちゃんの両方の健診があります。そこでも、育児で悩んでいるお母さんに助産師が寄り添い、いろいろなアドバイスをしています。

1ヵ月健診後、お母さんは産婦人科を終了します。赤ちゃんは予防接種の受診のため小児科外来へとつながっていきます。

以上ざっとではありますが、妊娠から産後1ヶ月健診までの流れをお話しました。

しかし、**助産師は妊娠から1ヶ月健診までではなく、思春期から更年期まで、いろいろな人生のステージの女性に寄り添いサポートしていきたいと思っています。**

人に言えない女性特有の様々な悩み事に対応しています。

こわがらずに産婦人科に受診してください。助産師が傍にいますので…



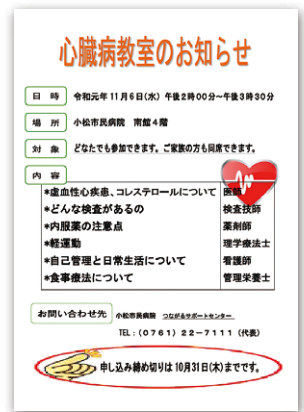
退院時

小松市民病院開催の教室のご案内します

心臓病教室

小松市民病院では、心臓病の患者さんに心臓の病気についての正しい知識や、日常生活の注意事項など、健康の管理と悪化の予防に必要なことを理解していただくため、1年に3回心臓病教室を開催しています。毎年3月、7月、11月に当院の南館4階の研修室で開催し、それぞれ「心不全」「不整脈」「動脈硬化、虚血性心疾患」をテーマに、医師、看護師、検査技師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士がそれぞれ詳しく説明いたします。また普段、病気についてのお悩みや疑問に思うことがあれば自由にご相談できます。予約をすればどなたでもご参加になれます。心臓病の患者さんがより元気に生活を送れることを願い、一人でも多くのご参加をお待ちしています。

(循環器内科医長 金田朋也)



心臓病教室のお知らせ

日時 令和元年 11月6日(水) 午後2時00分～午後3時30分
場所 小松市民病院 南館4階
対象 どなたでも参加できます。ご家族の方も同席できます。
内容
*虚血性心疾患、コレステロールについて
*どんな検査があるの
*内服薬の注意点
*軽運動
*自己管理と日常生活について
*食事療法について

講師
検査技師
薬剤師
理学療法士
看護師
管理栄養士

お問い合わせ先 小松市民病院 広報課(市民生活課)
TEL: (0761) 22-7111 (代)

申し込み締め切りは10月31日(木)までです。

腎臓病教室

腎臓病教室は1年間に2回、2日間通して開催しています。

検診や診察でたんぱく尿を指摘された人、腎臓の働きが悪いと言われた人などが対象です。医師・薬剤師・検査技師・看護師・栄養士・ソーシャルワーカーなど専門的なスタッフによる講義があります。内容は「腎臓病について」や「検査について」「お薬について」「福祉制度・医療制度について」「食事療法について」などです。試食会もあり、ご希望があれば腎臓病食の試食をして頂けます。患者さんご本人だけでなく、ご家族の方も一緒に参加することが出来ます。次回は、12月19、20日の予定です、予約が必要です。ぜひ参加をお待ちしています。

(透析療法室看護師 宮ノ腰真由美)



肝腎臓病教室★

放っておかない！
高血圧、糖尿病、たんぱく尿
高脂血症、高尿酸血症

高血圧、糖尿病、... 生活習慣病の危険が「腎臓病」

【日時】 12月19日(水) 14:00～16:00
12月20日(木) 12:00～14:30

参加無料！
試食のみ800円

【場所】 小松市民病院 南館4階
腎臓病一般たんぱく尿が気になる人、慢性の腎臓病、透析導入者

12/19(水) 12/20(木)

①腎臓病とはどんな病気(医師) ①腎臓病検査・食事療法について(看護師)
②どんな検査があるの?(検査技師) ②糖尿病・高脂血症について(薬剤師)
③内服薬について(薬剤師) ③自己管理と日常生活について(理学療法士)
④腎臓病食について(管理栄養士)

正しい知識を知り、みんなの力で腎臓病を克服しよう！
試食会の申し込み締め切りは12/13(金)までです。
小松市民病院の内科外来又は、つなごるサポートセンターまで、お電話かお申し込みください。
電話 (0761)22-7111

糖尿病教室

第2回糖尿病教室を7月18日に開催しました。今回のテーマは「糖尿病と食事」で、管理栄養士から糖尿病の食事療法の基本から注意点、最後には自分自身の必要な1日のエネルギー量を求めてみる実践を交えた内容の話でした。参加された方々は熱心にメモを取られ、和やかな雰囲気ですり療法について学ばれていました。

糖尿病教室は年8回を予定しています。教室では糖尿病の病気・合併症から、糖尿病とうまく付き合いながら療養生活を過ごすための基本的な知識を学ぶことができるように医師、看護師、管理栄養士、理学療法士、薬剤師、臨床検査技師、歯科衛生士がチームを組んで行います。随時開催しています。予約は不要でどなたでも参加出来ますので、ぜひ一緒に糖尿病について学びましょう！

(管理栄養士 高澤彩花)



2019年度 糖尿病教室のご案内

日時 午前 10:30～11:30
場所 本館2階 よつぱりてい原宿館 (院内にお越しください)

対象者 自由参加
糖尿病院にまだお入りになっていない糖尿病患者、糖尿病予備軍、どなたでも参加して頂きます！
途中退席・退出が可能で、予約を要するものではありません。

日	時間	内容	講師
第1回	2019年 6:20(水)	糖尿病とは 糖尿病の診断	内科医 検査技師
第2回	7:18(木)	糖尿病と食事	管理栄養士
第3回	8:22(金)	糖尿病と併発 フォトアについて	代産科医師 検査技師
第4回	9:19(土)	糖尿病と合併症 糖尿病と合併症 糖尿病と合併症	内科医 管理栄養士 医師
第5回	10:17(日)	糖尿病と合併症 糖尿病と合併症 糖尿病と合併症	代産科医師 検査技師 内科医
第6回	11:21(月)	糖尿病と合併症 糖尿病と合併症 糖尿病と合併症	内科医 管理栄養士 医師
第7回	12:19(火)	糖尿病と合併症 糖尿病と合併症 糖尿病と合併症	代産科医師 検査技師 内科医
第8回	2020年 1:18(水)	糖尿病と合併症 糖尿病と合併症 糖尿病と合併症	内科医 管理栄養士

編・集・後・記

食欲の秋、芸術の秋と云われますが、ぜひ運動の秋にもしたいですね。運動の効果は、生活習慣病の改善のみならず、リフレッシュにもなり、フレイル予防にもつながります。血糖値上昇を予防するためには、食後1時間半から2時間後に運動を取り入れるようにしましょう。(山本)



国民健康保険 小松市民病院

〒923-8560 石川県小松市向本折町ホ60番地
TEL(0761)22-7111(代) FAX(0761)21-7155
URL <http://www.hosp.komatsu.ishikawa.jp/>
E-mail cbsomu@city.komatsu.ishikawa.jp